

水 域 名	基 準 点 名	類 型	人 為 汚 濁 負 荷 量				自然汚濁 負 荷 量
			生活系	工 場 ・ 事業場系	畜産系	計	
仙台港地先海域（丙）	蒲 生 ー 4	A	0	0	0	0	0
二ノ倉地先海域（甲）	二ノ倉前ー1	C	0	22,541	0	22,541	0
“ （乙）	“ 2	B	0	0	0	0	0
“ （丙）	“ 3	A	0	0	0	0	0

注 1. 河川は、BOD汚濁負荷量、海域はCOD汚濁負荷量である。

2. 本表における汚濁負荷量は、本計画における現況は握のために算定したものであり、算定上の原単位などについては資料編参照のこと。

2. 将来予測

昭和65年度における将来予測は、発生源に係る汚濁負荷量について行うこととし、人口、工業出荷額、家畜（牛、豚）飼養頭数などの各指標について「県新長期総合計画」のフレームなどを基礎に各基準点ごとに予測した単純将来予測と、これに下水道整備計画などを加味した計画将来予測を行った。

(1) 単純将来予測汚濁負荷量

河川の単純将来予測汚濁負荷量を各水域の環境基準点ごとにみると、人為汚濁負荷量のうち生活系の汚濁負荷量の占める割合が大きい水域は現況とほとんど同様の水域であるが、新町川（常盤橋）では反対に工場・事業場系の汚濁負荷量の占める割合が生活系より大きくなり、また、広瀬川（鳴合橋）では現況とは異なって生活系の汚濁負荷量の占める割合が工場・事業場系より大きくなるものと予測される。

さらに、人為汚濁負荷量の内訳をみると、生活系の汚濁負荷量は、人口の増加が見込まれる仙台市内及び仙台市近郊の市町を流域にもつ水域で著しく増加することが予測され、特に、七北田川上流（七北田橋）、同中流（福田大橋）、梅田川（福田橋）ではその伸びは3倍以上に達する。反対に、生活系の汚濁負荷量が減少する水域は、北上川下流（登米）、迫川中流（若柳）など県北部を流れる河川である。

工場・事業場系の汚濁負荷量は、各水域でその増加がみられ、その伸びも生活系の伸びに比較して大きくなるものと予測される。特に名取川中流（余方）、同下流（閑上大橋）、旧北上川下流（門脇）などで汚濁負荷量の増大がみられる。